

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中野支部
機関紙「みらい」
NO. 4433
24年3月26日(火)
Tel・Fax 095-828-1953
文責 支部書記長

今回も非正規社員へはゼロ回答 非正規19万人は社員ではないのか？

おはようございます。

年度末まで1週間をすぎました。この時期はお子さんの卒業や入学など、仕事以外でも忙しい社員も多いかと思えます。また、送別会などで飲酒する機会も多くなりますが、絶対に飲酒運転とまらないようにくれぐれも注意しましょう。

日本郵政グループは、3月15日郵政ユニオンが提出した「24春闘要求への回答」を行いました。

正社員に関しては納得できる回答ではないものの、賃金改善行う回答がありました。時給制契約社員等への賃金改善や均等待遇要求については全くのゼロ回答でした。また組合が強く求めていた一時金も、昨年とは異なり物価高騰による生活

改善への対策ではなく、新たな成長戦略への期待等での特別一時金1.5万円（フルタイム）支給するとあっただけです。郵政ユニオンは先日報告した通り、この超低額回答に3月15日「抗議と怒りのストライキ」を



日本郵政グループ全社員のうち9割の社員が所属する日本郵便の非正規社員の比率は約47%です。郵便局ではほぼ同数の正規、非正規社員が一体となって働いています。この非正規社員の貢献に対して、郵政ユニオンの時給引上げに応じません。確かに「10月の最賃改定」に連動して上がるでしょう。しかし今、会社がやるべきことは春闘期に私たちの要求にこたえて非正規社員の時給を上げることであり「生活できる賃金の引き上げ」を行うことです。

郵政ユニオンは非正規労働者の処遇改善と不合理な格差を是正させていくたいたいとして、今年も3月1日、日本郵政本社前で「非正規社員の均等待遇と正社員化を求め本本社前集会」を開催しました。

全国から130名が集めた集会後には会場を衆議院第一議員会館に移して院内集会も開催されました。院内集会では非正規社員から日頃の不満や不安悩みなど切実な訴えがありました。一部「未来」で紹介します。

○土曜休配で土日の業務量が増え、要員が不足
○トリプルワークで働く深夜勤専門の労働者が亡くなった。全国的に掛け持ちして働く人が多いのではないかと。時給1500円以上になれば生活が楽になる。



○局で求人用のユーチューブ撮影があったが、

そこに金を出さずなら待遇面の改善をしてほしい。
○育休をとらしても人を入れず、現場にその負担を転嫁している。

○同じ仕事なのに正社員と時給が違うのは納得できない。また正社員の中でも格差が大きく、一般職の手取りは非正規と変わらず、非正規の方がよい。

○会社は何にでも格差をつけたがる。一般職はA有りよりも低い賃金。同一労働同一賃金にしてほしい。



発言内容を見ての通り、非正規として働く社員は正社員との格差に不満を持ちながら日々の業務に当たっています。

全国7地裁で提訴した郵政ユニオン集団訴訟は2021年3月長崎訴訟で最初の和解が成立しました。その際、和解条項に「期間雇用社員の待遇改善に真摯に努める」と

の文言が入りました。和解から3年、期間社員等の待遇改善は進んでいないのでしょうか？



昨年の23春闘では、物価高に対する対応として7万円の一時金は支給されたものの非正規社員のベアに関しては「ゼロ回答」。今年の24春闘では一時金も大幅減額となったうえにまたしても「ゼロ回答」です。



会社には現場を支えている非正規社員の声に耳を傾ける責務がありますし、裁判の和解条項を守る義務があると考えます。郵政ユニオンは今後も非正規社員の待遇改善・均等待遇を求めて全力でたたかいます。



仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望を全員の正社員化を。

ゆびさ、均等待遇、なげうち差別。

ユニオンは労基法裁判に勝利した。

ユニオンは労基法裁判に勝利した。